

[ 横浜市民ギャラリー ]  
**平成 30 年度業務報告及び収支決算**  
 [公益財団法人横浜市芸術文化振興財団／西田装美株式会社共同事業体]

※ 文中の事業欄において、  
 ●：主催事業 ○：共催事業 を示します。  
 ※ 文中の達成指標欄において、  
 □：定量的指標 ■：定性的指標 を示します。

1 施設の概要

施設名	横浜市民ギャラリー
所在地	横浜市西区宮崎町 26- 1
構造・規模	鉄筋コンクリート 4 階建(地下 1 階～地上 4 階)
敷地・延床面積	建築面積 824. 12㎡、延床面積 3, 428. 44㎡
開館日	平成26年10月10日

2 指定管理者

団体名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団／西田装美株式会社共同事業体
代表団体所在地	横浜市中区山下町 2 番地
代表団体代表者	理事長 近藤 誠一
代表団体設立年月日	平成 3 年 7 月 10 日
指定期間	平成 28 年 4 月 1 日から平成 33 年 3 月 31 日まで

3 指定管理に係る業務総括

(1) 基本的な方針の総括

<p>第 3 期指定管理期間の 3 年目にあたる 30 年度は、29 年度に引き続き、管理運営や事業の経験や蓄積を生かしながら下記の 3 つの基本方針に沿って取り組むことで、市民の“主体的な文化芸術活動の拠点”としての存在感を高めることに繋げることができました。</p> <p><b>【基本方針】</b></p> <p>1 文化芸術活動拠点としての機能の強化        ジャンルの幅を広げた事業の実施や、市民が企画に参加できるような取り組みを行い、多くの方達が輝きを持って文化芸術活動を行う機会を多く設けました。</p> <p>2 市民文化活動や創造活動に対する支援の強化        昨年度に引き続き、貸展示室業務を中心とした市民の創造活動のサポートを行いました。迅速で丁寧な対応を心がけ、リピーターの増加に繋げました。</p> <p>3 次世代を担う人材の育成の強化        横浜市民ギャラリーならではの子ども事業や若手アーティスト支援について計画通りに実施し、次世代育成のための取り組みを充実させました。</p>
---

### 【質の高い施設運営及び管理の実施】

3つの基本方針を支えるために、経験豊富なスタッフが、芸術面や運営面で施設利用者へ丁寧なアドバイスを行うほか、文化施設管理での高い実績を持つ共同事業体が、構成員としての強い責任を持ち、入館者が安心して創作や鑑賞に励める施設環境を提供しました。

## (2) 30年度の業務の方針及び達成目標の総括

### 【全体業務について】

共同事業体がそれぞれの専門知識を発揮できる体制で取り組みました。常に情報を共有し、課題があれば迅速に対応するなど共同事業体ならではの相乗効果の高い施設運営を行いました。

#### ① 事業について

展覧会事業や講座事業とも予定通りに実施しました。なかでも、「横浜市こどもの美術展」と「コレクション展 2019」では、目標を大きく上回る入場者数を記録しました。「新・今日の作家展」では入場者数は目標に届かなかったものの、作品発表の機会の少ない作家を積極的に紹介し周知する展示となりました。大人のためのアトリエ講座とハマキッズ・アートクラブでは、今年度も共に総じて高い満足度を記録していることが注目されます。また、ダンス、音楽など、美術のジャンルを超えた取組みも自主事業の枠組みの中で多数実施し、新しい来館者層の拡大に、着実に繋げることができました。

#### ② 運営について

オープン時から心がけている丁寧なお客様サービスを引き続き実施しました。貸展示室の運用変更（個人での利用を可能にする運用）を行ったことで、新規のご利用者の受け入れも拡大することができました。リピートでのご利用者もおられ、今後も長くご愛顧いただけるよう、きめ細やかな対応やサポートを継続してまいります。

#### ③ 管理について

専門職員による施設管理を実施しました。常に施設の利用状況に注意を払いながら、効率性を保ちつつ快適な空間をお客様に提供しました。またIPMについても、学芸員、設備担当職員、IPM業務委託業者と密な情報共有を行いながら、美術施設としての高い機能を維持しました。

#### ④ その他について

共催、協力事業、貸館事業においても、美術のみならず、音楽・演劇などのイベント、催事を行い、新たな来館者層を拡大しました。学芸員志望のインターンや、特別支援学校の生徒の就業支援としての実習を実施いたしました。自主事業でも、ボランティアとして集まっていた中学生からご高齢者まで幅広い層の方々など、実に多くの方々に横浜市民ギャラリーの内側から親しんでいただき、支援していただく機会を作ることができました。こうした関係は、当館の強みとなっています。

## 4 業務の取組と達成指標

### (1) 事業について

#### ア 発信性のある自主事業の実施について

#### [目指す成果]

歴史ある展覧会を実施し、市民へ多様な美術の鑑賞機会を提供します。

#### [成果についての振り返り]

「新・今日の作家展 2018」では、現在の表現の動向に焦点を当てる意図からテーマを設定し、国内外で活動を展開しながらも公立美術施設での発表の機会が少なかった作家3名を紹介しました。制作の過程で出会った人やものを通じて、様々な視点を作品の中に取り込んでいく作家の作品を展示したことにより、幅広い層の来場者をむかえ、好評を博しました。

「コレクション展 2019」では「今日の作家展」を軸に昭和後期の現代美術を紹介しました。横浜美術館開館まで市内の美術施設として中心的な役割を果たした当館の歴史を改めて明らかにするとともに、魅力的な作品の数々を美術史と照らし合わせながら展示しました。市民や美術愛好家などを中心とした来場者をむかえ、盛況のうちに終了しました。

両展覧会ともに作家インタビューを掲載するなどした充実した内容の小冊子を制作・無料配布し、鑑賞を深めるツールとして好評を博しました。

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<p>●自主企画展の年1回以上の開催</p>	<p>現在のアートシーンを紹介する展覧会の実施</p> <p>□新・今日の作家展 2018</p> <p>□入場者数 4,500名</p> <p>□関連企画 2事業</p>	<p>□新・今日の作家展 2018「定点なき視点」(展示室1、B1)(9/21-10/8)</p> <p>「新・今日の作家展」第3弾となる本年度は、制作の過程で出会った人やものを通じて、様々な視点を作品の中に組込んでいく作家3名を取り上げ、「定点なき視点」を開催。作家へのインタビューや作品解説を掲載した小冊子を会場で配布し、市民をはじめ美術愛好家に展覧会や作家を周知しました。また会場記録写真に加え、会期中に実施した関連イベント(対談3本)をテキスト化し掲載した記録集を作成し展覧会アーカイブを充実させました。関連イベントの他、社会人と大学生のための公開講座「野毛まちなかキャンパス」、横浜トリエンナーレサポーターへのギャラリートーク、市内高等学校のデザイン美術コース生徒へのレクチャーなど実施し、幅広い年齢層に展覧会を紹介しました。</p> <p>出品作家：岩井優、川村麻純、阪田清子</p> <p>□入場者数 3,561名</p> <p>□関連企画4事業実施(9/22、9/29、9/30、10/6)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対談「舟と橋、想像力について」(9/22) 出演：阪田清子、倉石信乃(明治大学理工学研究科総合芸術系教授)</li> <li>・対談「幽霊のはなし」(9/29) 出演：岩井優、久保明教(一橋大学大学院社会学研究科准教授)</li> <li>・対談「他者との関係性について」(10/6) 出演：川村麻純、鈴木理策(写真家)</li> <li>・学芸員によるギャラリートーク(9/30)</li> </ul>

<p>●収蔵作品を活用した展覧会の年1回以上の開催</p>	<p>□顧客満足度 4.0 以上</p> <p>横浜市民ギャラリーの所蔵作品を紹介する展覧会の実施</p> <p>□コレクション展2019</p> <p>□入場者数 4,000 名</p> <p>□関連企画 2 事業</p> <p>□顧客満足度 4.0 以上</p>	<p>□顧客満足度 4.4</p> <p>□コレクション展2019「昭和後期の現代美術1964－1989」（展示室1、B1） （3/1－3/17）</p> <p>横浜市民ギャラリーが開館した1964年から現代美術を紹介した「今日の作家展」の出品作家を中心に47点を展示しました。1989年の横浜美術館開館まで市内の美術施設として中心的役割をになった当館の歴史を明らかにするとともに、美術史に照らし合わせながら3章構成で魅力的な作品を紹介しました。特集展示では昭和後期に活躍した吉仲太造の全所蔵作品7点を展示しました。事前に材料調査もおこない、関東ではまとめた紹介の機会の少ない作家の意義ある展示となりました。</p> <p>□入場者数 4,476 名</p> <p>□関連企画 3 事業 4 回（3/3、3/9、3/10、3/16）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講演「1964年から：現代美術と横浜市民ギャラリー 吉仲太造を中心に」（3/3） 出演：光田由里（美術評論家）</li> <li>・学芸員によるギャラリートーク（3/10）</li> <li>・鑑賞サポーターによるトーク（3/9、3/16）</li> </ul> <p>□顧客満足度 4.5</p>
<p>●「今日の作家展」のWEB公開を目的としたアーカイブの実施</p>	<p>■「今日の作家展」の記録の整理</p> <p>□関連作家等へのインタビューの実施：インタビュー実施1名</p>	<p>■「今日の作家展」出品作家と当館所蔵作品を調査し、「コレクション展2019」で展示しました。「今日の作家展」を中心に開催展覧会の付属資料（チラシ、DM等）を整理し、データベース化しました。</p> <p>□3名（岩井優、川村麻純、阪田清子）の収録を実施し、許諾を得られた2名分のインタビュー映像を「新・今日の作家展2018」の会場で上映、ホームページで公開、小冊子に3名分を掲載しました。</p>
<p>●収蔵作品等の積極的な公開とアーカイブ</p>	<p>□収蔵作品の作家をピックアップし、インタビューの実施：インタビュー実施1名</p>	<p>□2名（中林忠良、若江漢字）の収録を実施し、「コレクション展2019」の会場で上映、ホームページで公開、小冊子にテキストを掲載しました。</p>

<p>の実施</p> <p>●横浜市民ギャラリーあざみ野との企画連携</p>	<p>□横浜市民ギャラリーあざみ野との企画連絡会議の実施</p>	<p>■横浜市民ギャラリーあざみ野との企画連絡会議を実施し、現代美術の展覧会をリレー展という形で開催し、共同講座を実施しました。</p> <p>□「新・今日の作家展 2018 定点なき視点」(9/21-10/8)、「あざみ野コンテンポラリーvol. 9 今もゆれている」(9/29-10/21)のリレー展</p> <p>□美術振興の担い手を育成することを目的とし、共同で「学芸員のための実践講座」を実施しました。横浜市民ギャラリーでは「美術品取扱い実習」、横浜市民ギャラリーあざみ野では「会場構成の基礎知識」を開講し、専門家を講師に迎え、より実践的な内容の講座を企画したことにより、全国各地の学芸員やフリーで活動するキュレーターが参加し好評を博しました。</p>
<p>●インターン制度の発足</p>	<p>■学芸員や教育普及者、実技指導者を目指している学生を対象としたインターン制度の発足：希望に応じて受け入れます。</p>	<p>■1名を受入れました。</p> <p>11月～31年1月に、大学で文芸・思想を学び将来学芸員職を目指す学生1名にコレクション管理業務のうち、ホームページにおける作品検索ページ開設に向けた作業、および資料整理業務についてそれぞれ部分的に携わってもらいました。</p> <p>■上記に加え、特別支援学校の生徒の就業支援となるよう、清掃業務やビルメンテナンスの体験実習生として、4回、延べ13日間に渡って、6名を受け入れました。</p>
<p>●横浜市の文化事業との積極的な連携</p>	<p>□「横浜芸術アクション事業」に寄与する事業を展開：1事業</p>	<p>□4事業実施</p> <p>・DDD @ YOKOHAMA 2018 パートナー事業「B1コンサート 美しきリュート～バロック・ダンスとの邂逅」(展示室B1)(8/24)</p> <p>出演：金子浩(リュート)、市瀬陽子(バロック・ダンス)、曲目：ヴァイス／前奏曲とパッサカリア 他、入場者数77名</p> <p>かつてその優しい音色がヨーロッパ中の人々に愛されたリュートの演奏にあわせ、フランス宮廷の貴族の間で流行し、バレエのルーツでもあるバロック・ダンスを紹介しました。</p> <p>・DDD @ YOKOHAMA 2018 共催事業「B1コンサート</p>

<p>●鑑賞サポーターの育成及び活用</p>	<p>□「フォト・ヨコハマ 2019」との連携：1事業</p> <p>□コレクション展におけるサポーターの活用 サポーターによるギャラリートーク 年1回</p>	<p>トMONO 須川展也plays “シャコンヌ”」(展示室B1)(8/26) 出演：須川展也(サクソフォン)、曲目：J.S. バッハ/シャコンヌ 他、入場者数109名 日本が世界に誇るクラシカル・サクソフォンの最高峰、須川展也による、サクソフォン1本だけのソロ・コンサート。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•DDD @ YOKOHAMA 2018 パートナー事業「スナッチとおどろろ！親子でダンスパーティー★」(展示室B1)(8/25)、参加者数11組22名、講師：砂山典子(ダンサー)</li> <li>•DDD @ YOKOHAMA 2018 パートナー事業「絵画とダンスのワークショップ 絵画に描かれたダンスと音楽～印象派の舞踏会〈ワルツ〉」(アトリエ)(11/3)、参加者数16名、講師：市瀬陽子(舞踊史研究者、ダンサー、振付・演出家)</li> </ul> <p>□1事業(再掲) フォト・ヨコハマの開催に合わせ、大人のためのアトリエ講座では映像作家を講師に迎え、カメラを通してどのように記録できるか、制作の背景や表現方法についてお話しいただきました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•レクチャー「声と風景を記録すること」(アトリエ)(2/11)、講師：小森はるか(映像作家)、参加者数28名、顧客満足度4.6</li> <li>•フォト・ヨコハマへの協力として、民間画廊にフォトヨコハマへの参加を呼びかけました。「画廊散歩」では1～3月号で写真展をクローズアップして掲載しフォトヨコハマを盛り上げたほか、広告掲載もおこない広報面でも協力しました。</li> </ul> <p>□育成研修4日間(1/12、1/26、2/9、3/4もしくは3/6)を経て、コレクション展会期中に、サポーター・メンバー(ボランティア)6名が3/9、3/16の2日間にわたり、各自が選んだ出品作品の魅力を語りました。またコレクション会場ではサポーターが執筆したテキストを掲載した「鑑賞サポーターによる作品紹介シート」を配布しました。</p>
------------------------	--	--

イ 次代を担う子どもの創造性教育事業の実施について

[目指す成果]

作品発表の場、文化芸術の体験の場を提供し、様々な経験を得て、自立の仕方を学べる場とします。

[成果についての振り返り]

「自分でつくる」「自分できめる」「自分でする」という自立心を育てることを大きな前提として持ちながら、造形や鑑賞、アウトリーチ等の活動を行い、子どもたちがさまざまな形で美術と出会う機会をつくりました。自分の描いた作品が展覧会で展示されるということ、アーティストやその表現・思考と出会うこと、意志をもって最後まで自分の力で取り組み作品をつくることなどを通して、子どもたち一人ひとりの成長や自信につなげることができました。講座参加者にはリピーターが着実に増え、また参加者が当館で出会ったアーティストの他館でのワークショップに参加するなど、子どもたちの興味関心を広げる場としての成果も見られました。

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<p>● 「横浜市こどもの美術展」の実施と新たな取組</p>	<p>□横浜市こどもの美術展 2018</p> <p>□入場者数 14,000 名</p> <p>□出品数 2,300 点</p> <p>□関連企画 1 事業</p>	<p>□横浜市こどもの美術展 2018(7/20-7/29)</p> <p>今年も会場が子どもたちの伸び伸びとした作品でいっぱいになりました。展覧会全体のテーマを「動物」とし、ダイナミックな表現が魅力の絵本作家・ミロコマチコの特別展示ではエントランスホールにも大型作品を展示したほか、ライブペインティングやこども音楽会などテーマに沿って関連事業を実施しました。また、自由参加ワークショップで作成したどうぶつお面をつけた子どもたちの姿が会場のあちらこちらに見られ、館全体にわたりにぎやかな雰囲気が創出できました。</p> <p>□展覧会入場者数 15,870 名、イベント来場者数 935 名、ボランティア参加者数 55 名、計 16,860 名</p> <p>□出品数 動物部門 1,008 点、自由テーマ部門 2,053 点 計 3,061 点</p> <p>□関連企画 6 事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミロコマチコ展「いきものかたちもよう」(7/20-7/29)</li> <li>・ミロコマチコライブペインティング (7/21)</li> <li>・自由参加ワークショップ「どうぶつお面をつくろう！」(7/20-7/29)</li> <li>・ハマキッズ・アートクラブ「へんてこ動物をつくろう！」作品展示(7/23-7/29)</li> <li>・夏のこども音楽会「ヤマハ エレクトーン オンステージ」各日 2 回、計 4 公演。ヤマハ音楽教室に通う子どもたちによる出張公演。(7/28、7/29)</li> </ul> <p>『ハマの JACK』の“野毛山動物園の謝肉祭”</p>

<p>●子どもの文化芸術の体験の場の提供と新たな取組</p>	<p>□顧客満足度 4.0 以上</p> <p>■&lt;テーマ部門&gt;の新設(28年度から継続実施) テーマ部門「動物を描こう」</p> <p>■自分でやってみる場の設置：ワークショップスペースの設置</p> <p>□サポーターの募集、育成 育成研修実施 年1回</p> <p>□アーティストとの交流の場の提供 アーティストの作品展示 年1回</p> <p>□ハマキッズ・アートクラブ 全10回 (横浜芸術アクション関連講座1回を含む)</p> <p>□親子対象講座 年3回</p> <p>□年長児対象講座 年2回</p>	<p>NHK交響楽団などで活躍する「ハマのJACK」のメンバーが、参加者との掛け合いが楽しい楽曲などを披露しました。(7/29)</p> <p>□顧客満足度 4.6</p> <p>■テーマ部門「動物」を設定。アーティスト作品展示、自由参加ワークショップ、音楽会など展覧会全体のテーマとしました。</p> <p>■会期中だけでも取り組める自由参加ワークショップ「どうぶつお面をつくろう！」の場を設置しました。(7/20-7/29)</p> <p>□サポーター(ボランティア)を募集し、育成研修を実施しました。(6/30)</p> <p>■ミロコマチコ展「いきものかたちもよう」(7/20-7/29)、ミロコマチコライブペインティングおよびサイン会(7/21)、関連ワークショップ「へんてこ動物をつくろう！」(7/22)を実施。</p> <p>□ハマキッズ・アートクラブ 年齢に応じた様々なプログラムを提供し、活動を通じて子どもたちに「自分で考える」「自分で決める」「自分でする」ことの楽しさや醍醐味を体験する機会を提供しました。</p> <p>□親子対象講座 年4回 ①4/22「トートバッグをつくろう」講師：横田佳子(エドゥケーター)、参加者数21組41名、顧客満足度4.8、 ②5/26「えのぐであそぼう」講師：山田佐映子(ワークショップユニット「うめぐみ」主宰)、参加者数19組35名、顧客満足度4.9、 ③8/25「スナッチとおどろう！親子でダンスパーティー★」講師：砂山典子(ダンサー)、参加者数11組22名、顧客満足度4.9、 ④12/1「クリスマスかざりをつくろう」講師：三ツ山一志(主席エドゥケーター)、参加者数16組32名、顧客満足度5.0)</p> <p>□年長児対象講座 年2回 ①9/1「マリンドームをつくろう」講師：大竹美佳(造形作家)、参加者数28名、顧客満足度4.8、 ②2/17「スーパーカーをつくろう」講師：三ツ山一志(主席エドゥケーター)、参加者数21名、顧客満足度4.7)</p>
--------------------------------	--	--

<p>●横浜市の文化事業との積極的な連携</p> <p>●横浜美術館、横浜市民ギャラリーあざみ野の子ども事業との連携</p>	<p>□小学校低学年対象講座 年3回</p> <p>□小学校高学年対象講座 年2回</p> <p>□参加者数 200名</p> <p>□顧客満足度 4.0以上</p> <p>□「横浜芸術アクション事業」に寄与する事業を展開 1事業実施</p> <p>□3館で事業連携をし、講座内容や対象年齢を考慮した講座の開催 企画会議：年1回実施</p> <p>■3館での相互広報の体制作り：応募の落選者へ他館の講座を知らせる仕組みづくりを行う。(28年度から継続実施)</p>	<p>□小学校低学年対象講座 年3回 (①7/22「へんてこ動物をつくろう！」講師：ミロコマチコ(アーティスト)、参加者数24名、顧客満足度4.9、 ②8/25「スナッチとおどろろ！親子でダンスパーティー★」講師：砂山典子(ダンサー)、参加者数11組22名、顧客満足度4.9、 ③11/10「モバイルをつくろう」、講師：宇田川純子(アーティスト)、参加者数22名、顧客満足度4.9)</p> <p>□小学校高学年対象講座 年4回 (①6/23「油絵に挑戦！」、講師：東麻奈美(アーティスト)、参加者数24名、顧客満足度4.9、 ②7/22「へんてこ動物をつくろう！」講師：ミロコマチコ(アーティスト)、参加者数24名、顧客満足度4.9、 ③8/25「スナッチとおどろろ！親子でダンスパーティー★」講師：砂山典子(ダンサー)、参加者数11組22名、顧客満足度4.9、 ④1/27「フェルトで動物をつくろう」講師：大竹美佳(造形作家)、参加者数16名、顧客満足度4.8)</p> <p>□全講座の参加者数265名</p> <p>□全講座の顧客満足度4.8</p> <p>□DDD@YOKOHAMA2018 パートナー事業 8/25「スナッチとおどろろ！親子でダンスパーティー★」講師：砂山典子(ダンサー)、参加者数11組22名、顧客満足度4.9(再掲)</p> <p>□3館での連携講座は開催されませんでした。連携に向けた企画会議を開催し、各館での講座内容やプログラム等の情報を共有しました。 企画会議：10月16日、11月9日</p> <p>■応募の落選者に他館の講座を周知し、他館の事業への参加促進に寄与しました。</p>
--	--	---

<p>●親子講座の開催</p>	<p>□親子で造形を楽しむ講座を開催：年3回実施</p>	<p>□年4回          (①4/22「トートバッグをつくろう」講師：横田佳子(エドゥケーター)、②5/26「えのぐであそぼう」講師：山田佐映子(ワークショップユニット「うめぐみ」主宰)、③8/25「スナッチとおどろろ！親子でダンスパーティー★」講師：砂山典子(ダンサー)、④12/1「クリスマスかざりをつくろう」講師：三ツ山一志(主席エドゥケーター)(再掲)</p>
<p>●教育機関等への支援の実施と新たな取組</p>	<p>□アートティーチャーズ・プロジェクトの取組みを共有し、＜美術の教師のための鑑賞レクチャー＞や＜教師のためのワークショップ＞等の造形・鑑賞の指導の実施：年1回実施</p>	<p>□年3回(1/22、3/23、3/24)          ・横浜市教育委員会との共催で美術教員に向けた研修を実施。研修では、教師の展覧会に対する興味を喚起し、授業等でも活用してもらおうという主旨で、コレクション展担当学芸員が展覧会の魅力や見どころについてのレクチャーを行いました。横浜市民ギャラリーでは学校の希望に応じた児童・生徒向けのギャラリートークが実施可能であることを伝えました。(1/22)          ・横浜美術館「教師のためのワークショップ2019」に協力し講師を務めました。(3/23、3/24)</p>
<p>●横浜市芸術文化教育プラットフォーム『学校プログラム』への協力</p>	<p>■横浜市芸術文化教育プラットフォームへの協力          全面協力をする。</p>	<p>■横浜市芸術文化教育プラットフォームへ全面協力しました。(全3校6回)          ① 横浜市立末吉小学校5年生124名(10/29、11/1「土ねんどであそぼう」講師：宇田川純子(アーティスト))          ② 横浜市立さわの里小学校1年生49名、上中里幼稚園年長児54人(1/16「紙テープアートつないでつないで」、講師：宇田川純子(アーティスト))          ③ 横浜市立瀬谷さくら小学校6年生のべ153名(1/30、1/31、2/4「コマ撮りアニメーションをつくろう」、講師：伊藤浩平(デザイナー))</p>
<p>●鑑賞教室等のアウトリーチ等の実施</p>	<p>□小学生、中学生、高校生を対象としたアーティストトークや鑑賞教室の実施          1事業実施</p>	<p>□3事業実施          ① 「新・今日の作家展2019」レクチャー          市内高等学校のデザイン美術コース生徒25名(10/5、講師：齋藤里紗(学芸員))          ② アウトリーチワークショップ</p>

		県立青少年センターこどもフェスティバル 「どうぶつお面をつくろう！」(1/27) ③ 横浜市芸術文化教育プラットフォーム学校 プログラムアウトリーチ 小学校3校6日 間(再掲)
--	--	--

ウ 市民アーティストの創造活動支援の実施について

<p>[目指す成果]</p> <p>実技と教養の講座を開催し、展覧会事業に加え、“美術”をめぐるアプローチを多く提供して美術ファンのすそ野を広げます。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <p>これまでの人気講座(クロッキー、デッサン、古典技法)を継続し、新たな試みとしてシルクスクリーン、日本画、民族工芸のワークショップ、油彩画、金継ぎといった新ジャンルの連続講座、座学では西洋絵画技法、映像、美術品取扱い実習を実施し、様々な切口から創造活動の場を提供しました。これまでのリピーターに加えて、初めて横浜市民ギャラリーの講座に参加する方も多く迎えることができました。</p>		
<p>[取組内容]</p> <p>●利用団体等が行う活動の支援の充実</p> <p>・利用団体への丁寧な相談・助言</p> <p>・利用団体の展覧会についての積極的な広報</p> <p>●文化芸術の体験の場としての講座等の実</p>	<p>[達成指標]</p> <p>■事前打ち合わせを実施</p> <p>■&lt;ヨコハマ・アートナビ&gt;&lt;アートヨコハマ&gt;&lt;横浜画廊散歩&gt;での事前広報</p> <p>■ヨコハマ・アートナビへの情報提供</p> <p>□アートヨコハマ年3回発行</p> <p>□横浜画廊散歩月1回発行</p> <p>■ホームページでの展覧会の紹介：会期初日にホームページ上で公開</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>■展覧会開催1か月前に事前打ち合わせを実施したほか、随時相談に応じ、展覧会終了までサポートしました。</p> <p>■利用団体の展覧会情報を横浜市民ギャラリーの情報誌やホームページ上に掲載するとともに、LOD化されているヨコハマ・アートナビへ情報提供するなど、積極的な広報支援に努めました。</p> <p>■ヨコハマ・アートナビへの情報提供を毎月実施しました。</p> <p>□アートヨコハマ年3回発行(6月、10月、2月)</p> <p>□横浜画廊散歩月1回発行</p> <p>■横浜市民ギャラリーを利用する全ての団体の展覧会期初日に会場の様子を撮影し、ホームページで公開するとともにSNSでも画像やハッシュタグを付ける等の工夫をしながら発信し、広報に協力しました。</p>



<p>・横浜市の文化芸術事業との関連講座の開催</p> <p>●美術情報の提供及び広報の充実</p> <p>・横浜美術館との情報連携の強化</p> <p>・ホームページ、SNS等の活用による充実しタイムリーな情報発信</p> <p>・広報誌の定期的な発行</p>	<p>□参加者数 200名</p> <p>□顧客満足度 4.0以上</p> <p>□「横浜芸術アクション事業」に寄与する事業を展開：1事業実施</p> <p>■広報連携の実施</p> <p>■横浜市の文化政策上重要な事業については、映像情報等を交えたコーナーを設置し、広報する：会期に合わせて紹介</p> <p>■空室情報の更新 随時</p> <p>■展覧会情報 会期初日に展覧会情報を紹介</p> <p>・定期的に情報誌を発行</p>	<p>はるか(映像作家)、参加者数28名、顧客満足度4.6(再掲)、</p> <p>③2/2、2/3「学芸員のための実践講座1 美術品取扱い実習」、講師：天野太郎、名田恒治(ヤマトグローバルロジスティクスジャパン株式会社美術品梱包輸送技能取得士1級保持)、参加者数22名、顧客満足度4.7)</p> <p>□参加者数 272名</p> <p>□顧客満足度 4.7</p> <p>□1事業実施(再掲)</p> <p>DDD @ YOKOHAMA 2018 パートナー事業「絵画とダンスのワークショップ 絵画に描かれたダンスと音楽～印象派の舞踏会〈ワルツ〉」(11/3)、講師：市瀬陽子(舞踊史研究者、ダンサー、振付・演出家)、参加者数16名、顧客満足度4.9</p> <p>■「横浜画廊散歩」や「アートヨコハマ」では横浜美術館の事業をピックアップし、横浜市民ギャラリーあざみ野とはそれぞれの情報誌で相互に事業を紹介したほか、展覧会会期に合わせてチラシやポスター掲示を効果的な場所に設置し、SNSでの発信や、展覧会の告知動画をエントランス・送迎車内などでお互いに放映する等広報において連携しました。</p> <p>■エントランス・送迎車内モニターで横浜美術館、横浜市民ギャラリーあざみ野などの展覧会告知映像を放映し、併せてチラシを配架して広報しました。</p> <p>■空き室情報を随時更新しました。</p> <p>■利用団体の展示作業が終了し次第、会場の様子を撮影し、ホームページ上で紹介しました。また、SNSでも展覧会を紹介しました。</p> <p>□定期的に情報誌を発行し、ホームページと連動させ、民間ギャラリーを含む横浜市内の展覧会情報を市民に提供しました。</p>
---	--	---

<p>●市民参画等の協働の推進による美術振興の担い手育成</p> <p>・文化芸術の情報場の強化及び集客キャンペーンの実施</p>	<p>□アートヨコハマ 発行回数：年3回</p> <p>□ヨコハマ・ギャラリー・マップ 発行回数：年1回</p> <p>□横浜画廊散歩 発行回数：月1回</p> <p>■文化芸術の情報場として強化：情報コーナーの充実</p> <p>■キャッチコピーの掲示による集客の継続</p>	<p>□アートヨコハマ(再掲) アートヨコハマはデザインをリニューアルし、当館事業の記事枠を広げ、情報発信の内容を充実させた他、広告枠も拡大させたため広告料収入もアップしました。価格を見直したことで、リニューアルにもかかわらず、前年度よりも予算を押さえることができました。</p> <p>□年3回(6月、10月、2月)</p> <p>□発行部数：10,000部/回</p> <p>□配布箇所：約950箇所配布(学校ポスト約500箇所含む)</p> <p>□ヨコハマ・ギャラリー・マップ □年1回(7月)</p> <p>□発行部数：15,000部</p> <p>□配布箇所：約950箇所配布(学校ポスト約500箇所含む)</p> <p>□横浜画廊散歩 広告枠を拡大し、広告料収入アップにつなげました。画廊、美術施設との日々の細やかなやりとりが、地域のギャラリーネットワークを支えています。</p> <p>□発行回数：年12回(毎月発行)</p> <p>□発行部数：4,500部/月</p> <p>□配布箇所：約220箇所(毎月)</p> <p>■チラシラックは常に整理に努め、展覧会の内容に合わせたチラシの配架を行い、各地の公募展の案内を集めた「公募要項コーナー」を作り、欲しい情報が入手しやすい工夫をしました。また、ポスターも配色やレイアウトに気を配りながら掲出しました。気軽に当館の図録や美術書籍等を手に取って読むことができるよう美術図書読書コーナーを新設しました。</p> <p>■「展覧会はどなたでも無料でご覧いただけます」というキャッチコピーを親しみやすいイラストとともに掲載した大型バナーを継続して館外入口に設置し、気軽に立ち寄ることのできる雰囲気 연출しました。また、外国語対応の一環としてホームページに英語の案内ページを設けているほか、館外の掲示板に英語の案内も掲</p>
---	---	---

<p>・横浜市民ギャラリーあざみ野との共同講座の実施</p>	<p>□「美術品の扱い方」、「展覧会の作り方」、「ワークショップのハンドリング」等の専門的な知識を得られる講座の実施 1 講座</p>	<p>出しています。</p> <p>□2講座（再掲） 「学芸員のための実践講座1 美術品取扱い実習」（2/2、2/3）、講師：天野太郎、名田恒治（ヤマトグローバルロジスティクスジャパン株式会社美術品梱包輸送技能取得士1級保持）、参加者数22名、顧客満足度4.7、 「学芸員のための実践講座2 会場構成の基礎知識」（3/2）、講師：佐野誠（スーパーファクトリー代表）※横浜市民ギャラリーあざみ野で実施</p>
<p>・自主企画展におけるボランティアの活用</p>	<p>□ボランティアの活用 年2回</p>	<p>□ボランティアの活用 年2回(再掲)</p> <p>・「横浜市こどもの美術展2018」自由参加ワークショップ「どうぶつお面をつくろう！」のサポート（7/20-7/29）、参加者数32名、延べ55名 ・「コレクション展2019」鑑賞サポーター（3/9、3/16）、参加者数6名、延べ11名(事前研修は1/12、1/26、2/9、3/4、3/6)</p>

エ 創造活動を介した人々のネットワーク形成について

<p>[目指す成果]</p>		
<p>ネットワークの形成により市民施設、機関との関係性を育み、文化芸術活動を市民にとって身近なものとして受け取ってもらえるようにします。</p>		
<p>[成果についての振り返り]</p>		
<p>業務計画通り、様々な市民施設、横浜市教育委員会等の機関等と相互交流を行い、文化芸術活動を様々な形で市民に向けて発信しました。情報誌「横浜画廊散歩」や「ヨコハマ・ギャラリー・マップ」は、市内の美術関係者と連携しながら発行し、横浜市内の美術振興の一翼を担いました。横浜美術館の展覧会情報や、近隣他施設の情報を館内エントランスのモニターで放映するなど、他施設との広報連携を引き続き行うとともに来館者へ多彩な情報を伝える取組みを実施しました。</p>		
<p>[取組内容] ● 関連施設、民間ギャラリー、利用団体、ボランティア、アーティスト、学校教育間での相互交流の実施</p>	<p>[達成指標] ・ 関連施設とのネットワーク ■ インターネット情報、印刷物相互配布 通年</p>	<p>[実施内容と達成状況] ■ 関連施設とのネットワークを形成し、ホームページへ施設情報の掲載、展覧会情報や印刷物の相互提供を行いました。また近隣の公共施設5館(県立音楽堂・県立図書館・県立青少年センター・横浜能楽堂)で構成される5館長会では、情報交換や課題共有を行い、紅葉ヶ丘一帯での連帯感の向上について意見交換をいたしました。2019年秋の5館連携事業開催にむけて、担当者が集まり定期的に会議を開始しました。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間ギャラリーとのネットワーク</li> <li><input type="checkbox"/> 横浜画廊散歩発行月 1 回</li> <li><input type="checkbox"/> ヨコハマ・ギャラリー・マップ発行 年 1 回</li> <li>■ 展覧会のホームページへの掲載</li> <li>・利用団体との交流</li> <li>■ 貸館利用打合せ実施：通年</li> <li>・ボランティアの活用</li> <li><input type="checkbox"/> 横浜市こどもの美術展、コレクション展にて募集 年 2 回</li> <li>・アーティスト</li> <li><input type="checkbox"/> 大人のためのアトリエ講座の実施 全 10 講座</li> <li><input type="checkbox"/> 展覧会の実施 年 3 回</li> <li>・学校教育</li> <li><input type="checkbox"/> アートティーチャーズ・プロジェクト 年 1 回</li> <li><input type="checkbox"/> アウトリーチ 年 1 回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 民間ギャラリーとのネットワーク 画廊、美術施設との日々の細やかなやりとりが、地域とのギャラリーネットワークを形成しています。</li> <li><input type="checkbox"/> 横浜画廊散歩発行 月 1 回</li> <li><input type="checkbox"/> ヨコハマ・ギャラリー・マップ発行 年 1 回(7月)</li> <li>■ 展覧会情報をホームページへ掲載実施したほか SNS でも発信しました。</li> <li>■ 貸館利用打合せを通年で実施しました。</li> <li>・ボランティアの活用(再掲)</li> <li><input type="checkbox"/> 「横浜市こどもの美術展2018」「コレクション展2019」にて募集し、38名（研修を除きのぞき延べ66名）が参加しました。</li> <li>・アーティスト(再掲)</li> <li><input type="checkbox"/> アトリエ講座を全12講座実施しました。</li> <li><input type="checkbox"/> 展覧会を年 3 回実施しました。（「横浜市こどもの美術展2018」「新・今日の作家展2018」「コレクション展2019」）（再掲）</li> <li>・学校教育(再掲)</li> <li><input type="checkbox"/> 年 3 回（再掲）</li> <li>・教育委員会共催で教員向け研修を年 1 回実施しました。（1/22）</li> <li>・横浜美術館「教師のためのワークショップ2019」に協力し、講師を務めました。（3/23、3/24）</li> <li><input type="checkbox"/> アウトリーチ 小学校 3 校 6 日間。 横浜市芸術文化教育プラットフォームへ全面協力しました。</li> </ul>
--	---	---

(2) 運営について

ア 創造活動の施設の提供について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 公平・公正かつホスピタリティの高い貸出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 全展示室利用団体の抽選会 年1回</li> <li><input type="checkbox"/> 1～5室利用団体の抽選会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 全展示室利用(令和2年度)抽選日 3/25 抽選参加団体：15 団体、決定団体：15 団体</li> <li><input type="checkbox"/> 1～5室の利用 抽選日：毎月 10 日(実施)</li> </ul>

<p>業務</p> <p>・多くの市民に利用してもらえるような公平・公正で、透明性の高い施設貸出</p>	<p>月1回</p> <p>■抽選会後の空き室 先着順</p> <p>■当日の利用申込み等の緊急時の、安全を確認した上での対応</p> <p>■利用団体からのアンケートを運営に活かすために職員内で情報共有する。</p> <p>□利用団体からのアンケート回収率 80%以上</p> <p>□施設スタッフ全員での定期的なミーティングの開催 月1回</p>	<p>■空き室の申込は抽選終了後、毎月 15 日から先着順にて受け付けました。</p> <p>■今年度の実績はありませんでしたが、日常的に当日利用申込みへの対応可能な体制を取りました。</p> <p>■利用団体からのアンケートを職員内で情報共有しました。アンケートの意見を反映し、倉庫内掲示の工夫、施設の貸出し基準の変更など運営に活かしました。</p> <p>□利用団体からのアンケート回収率 98%</p> <p>□施設スタッフ全員での定期的なミーティング 月 1 回開催(4/9、5/8、6/5、7/10、8/7、9/4、10/2、11/6、12/4、1/8、2/5、3/5)</p>
<p>・利用団体への丁寧な相談・助言</p>	<p>■展覧会開催・終了までの利用打合せ・展示作業及び展覧会期間中の運営サポートや広報面でも協力助言し、安心して展覧会が開催できるよう支援</p> <p>□アンケート満足度 4.0 以上</p>	<p>■利用者の経験等を鑑みながら、きめ細やかな運営サポートを行い、利用者が安心して展覧会が開催できるよう支援しました。</p> <p>□アンケート満足度 4.6</p>
<p>・利用団体の展覧会についての積極的な広報</p>	<p>■「アートヨコハマ」への開催情報の掲載</p> <p>■会場風景をホームページで紹介。展覧会情報を Facebook、twitter に掲載</p> <p>■利用者ごとの柔軟な対応</p>	<p>■「アートヨコハマ」のほか「画廊散歩」に開催情報を掲載し、ホームページでも公開しました。また、「ヨコハマ・アートナビ」へ情報提供を行いました。(再掲)</p> <p>■全ての展覧会の初日に会場風景を撮影し、ホームページで紹介したほか、展覧会情報を Facebook、twitter に画像やハッシュタグ付で掲載するなど、利用者の展覧会への広報支援を行いました。</p> <p>■利用者からの作品の展示に関する相談に対応したほか、必要に応じて作業を手伝うなど、利用者ごとに柔軟に対応しました。</p>
<p>・エリアを通じた施設周知</p>	<p>■近隣・コミュニティとのリレーションシップによりエリアを通じた施設周知を図る。</p>	<p>■町内会・伊勢山皇大神宮・横浜成田山・横浜市従会館と情報交換を密に行いました。</p> <p>・伊勢山皇大神宮への当館チラシラックの設置、町</p>

<p>・横浜市民ギャラリーあざみ野との連携による情報提供</p>	<p>近隣・コミュニティとの連絡会の開催</p> <p>■広報連携の実施</p> <p>■空き室情報の共有の実施</p>	<p>内会掲示板へのチラシ掲示を通じ、自主事業の周知にご協力いただきました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣の公共施設5館(県立音楽堂・県立図書館・県立青少年センター・横浜能楽堂・横浜市民ギャラリー)で構成された5館長会に参加し、情報交換や課題共有を行いました。また2019年秋の5館連携事業開催に向けて、担当が集まり定期的に会議を開始しました。</li> <li>・施設周知の一環として、県立青少年センター子どもフェスティバルに協力し、アウトリーチワークショップ「どうぶつお面をつくろう！」を実施しました。(1/27)(再掲)・地域のはりがみラリーに協力し、エリアを通じて施設周知を図りました。</li> <li>・地域のはりがみラリーに協力し、エリアを通じて施設周知を図りました。</li> <li>・野毛地区振興事業協同組合、野毛地区街づくり会、および横浜商科大学の連携によって企画・運営される社会人と大学生の公開講座「野毛まちなかキャンパス」の第1回として「新・今日の作家展 2018」の特別鑑賞とレクチャーを実施しました(10/1、講師：大塚真弓)。</li> </ul> <p>■横浜市民ギャラリーあざみ野と相互に情報誌への掲載、チラシ配架、ポスター掲示、SNS発信を行ったほか、館内エントランスモニターでの告知映像放映等の広報連携を実施しました。</p> <p>■空き室情報をホームページ上で公開しました。</p>
----------------------------------	--	---

イ 利用促進及び利用者サービスの向上及びアイデアノウハウの提案

<p>[取組内容]</p> <p>●適切な施設情報発信等による認知度向上への取組強化</p>	<p>[達成指標]</p> <p>■施設情報を適切に発信し、施設の認知度アップに取り組む。</p> <p>■ホームページでの施設情報周知</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>■ホームページやSNSで展覧会情報、自主事業情報、空き室状況、送迎車情報を発信し、施設の認知度アップに取り組みました。施設利用者が自ら発信できるよう、来場者向けWi-Fiの利用をご案内しました。</p> <p>■展示室・アトリエのバーチャルツアーをホームページに引き続き掲載したほか、PRタイムズなどのウェブメディアへの施設情報提供や、「画廊散歩」の空きスペースへの広告の形での施設情報の掲載、文書の送付状への一文追記などで</p>
--	--	--

<p>●空き室の有効利用等の利用促進のための取組の拡充</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 全展覧会を Facebook、twitter で紹介</li> <li>■ 利用案内による施設情報周知</li> <li>■ 積極的な施設貸出の営業</li> <li>■ ホームページでの空き室情報の随時アップ</li> <li>■ 美術関係者・団体とのネットワーク拡大により個別に営業をかけられる体制の構築</li> <li>■ 抽選に外れた全利用者への代替案の提案</li> <li>■ 空室の直前割引の実施 利用日より6か月を切った展示室空室の50%減免での営業活動の実施</li> <li>■ 空室の個別の営業活動の実施：横浜近郊の美術系大学への利用案内</li> <li>■ アトリエに特化した広報物の作成：過去利用団体への利用案内(28年度から継続</li> </ul>	<p>きる限り周知に努めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 全展覧会を画像やハッシュタグ付きで Facebook、twitterで紹介しました。(再掲)</li> <li>■ 利用の手引きを更新し、利用団体への配布を開始しました。アトリエの案内に特化したチラシを挟み込み、利用団体へ積極的に配布しました。</li> <li>■ 過去の利用実績のある団体に積極的にお声掛けをしました。会期が迫った空き室については利用が可能な日を明記したチラシを作成し、美術系大学に送付したほか、館内にも配架しました。また、利用日より半年を切った空き室は、10名未満の団体や個人も利用できる運用を開始したことで、新規のご利用者を増やすことができました。さらに、全展示室利用の抽選の枠を拡大する運用も行い、従来のお客様を大切にしながらも、より広くのお客様が利用しやすい環境を整えました。</li> <li>■ ホームページで空き室情報を随時アップし、最新の情報を提供しました。</li> <li>■ これまでの施設運営で蓄積した美術関係者・団体とのネットワークを利用し、利用促進のための営業を行い、1件の利用に結びました。(1/31～2/17上田順平個展『シン／エン』(B1))</li> <li>■ 抽選に外れた利用希望者に対しても、別日程での利用を提案するなど、施設の利用を促進するよう努めました。</li> <li>■ 直前割引の実施よりも、10名未満の団体や個人での利用を可能とする運用の方が、より良い顧客サービスに繋がるため、直前割引の実施は見送りました。</li> <li>■ 横浜近郊の美術大学の学生向けに展示室の空き室利用に関するチラシを作成し送付しました。高校や大学の美術学科や美術・書道部などが安定的にご利用いただけるようになりました。</li> <li>■ アトリエの案内に特化したチラシを作成し、「利用の手引き」に挟み込んで配布しました。アトリエ利用促進の告知動画を引き続き館内エントラン</li> </ul>
---------------------------------	--	--

<p>●利用率の向上と目標指標の達成</p> <p>●要望・苦情への適切な対応とその共有の実施</p>	<p>実施)</p> <p>■美術関連の学校、学部への周知・営業活動の実施</p> <p>■学生の芸術活動の育成 展覧会主旨等を精査の上、共催事業として100%減免</p> <p>■美術に限らずジャンルを超えたアーティストの創造活動支援</p> <p>30年度目標</p> <p>□来館者目標：25万人 ・利用率</p> <p>□展示室：91%</p> <p>□アトリエ：43%</p> <p>■職員ミーティングでお客様への対応の確認：随時</p> <p>■お客様へのアンケートの実施と共有：通年</p> <p>■苦情・要望の分析と共有：随時</p> <p>■速やかな対応と再発防止のための情報共有：随時</p> <p>■横浜市との情報共有：随時</p> <p>■改善事例のホームページ公開：随時</p>	<p>スモニターで放映し、エントランスの休憩スペースのテーブル上に広告を設置したほか、アートヨコハマに貸館情報コーナーを新設しアトリエの利用案内を掲載するなど、宣伝に努めました。この結果、アトリエという貸し施設があることの周知が進み、アトリエの利用率が向上しました。また、映画上映会など、これまででない形態でのご利用実績もあり、様々な要望にお応えできる施設としての注目も集めることができました。</p> <p>■会期(利用日)が迫った空き室の案内のチラシを作成して美術系大学に送付しました。</p> <p>■今年度は該当する事業はありませんでした。</p> <p>■舞台公演の稽古場と本公演用に、展示室をご利用いただくことで、美術とは異なるジャンルでの利用について協力しました。</p> <p>□来館者：256,215人</p> <p>□展示室：95%</p> <p>□アトリエ：47%</p> <p>■お客様対応の確認について日常的に議題にあげ、常に高いサービス実現のために職員一同取り組みました。</p> <p>■お客様へのアンケートは全職員に回覧、意見交換などを実施し、情報共有及びサービス向上に努めました。</p> <p>■苦情・要望については直ちに職員間で共有し、意見交換の上、対応等を決定して速やかに対応するとともに再発防止に取り組みました。</p> <p>■横浜市との情報共有を随時行いました。</p> <p>■30年度分の予約から、展示室に空きがある場合は、個人や10人未満のグループも利用月の6か月前から先着順で利用申込みを可能とする貸出</p>
---	--	--

<p>●市民の芸術活動の深化のための取組の実施</p>	<p>■市民が交流し、情報交換や知識収集のできる環境の整備：閲覧スペースの設置 通年</p>	<p>基準への変更などの改善事例をホームページで公開し、利用促進を図りました。その結果、平成30年度の10人未満の利用は9件あり、新規の顧客層の拡大に繋がりました。また31年度からの運用改訂として、アトリエの利用率向上を目指し、利用における優先事項の設定や、利用日数の上限撤廃についてホームページで公開しました。</p>
<p>●宮崎町親和会(町内会)や伊勢山皇大神宮との協力体制構築</p>	<p>■町の美化や町内行事の参加だけでなく、一緒に施設のPR等を実施 ■宮崎親和会での事業周知：通年 ■伊勢山皇大神宮の参拝客へのアピール：通年</p>	<p>■エントランスに机・椅子・チラシラック等を設置し、各地の展覧会情報を見ることのできるスペースとして通年設置しました。チラシラックは常に整理し、開催中の展覧会の内容に合わせて配架ジャンルやレイアウトを工夫しました。また気軽に当館の図録や美術書籍等を手に取って読むことができるよう美術図書読書コーナーを新設しました。</p> <p>■町の美化行事への参加だけでなく、町内会の掲示板にてチラシを掲示していただくなど、一緒に施設のPR等を実施しました。(再掲)</p> <p>■町内会掲示板へのチラシ掲示により、自主事業の周知に通年でご協力いただきました。(再掲)</p> <p>■伊勢山皇大神宮に当館のチラシラックを設置していただき、ポスター掲示とともに参拝客へのアピールを通年行いました。(再掲)</p> <p>この他、施設周知と地域活性化の一環として、県立青少年センターこどもフェスティバルに協力し、アウトリーワークショップ「どうぶつお面をつくろう！」を実施しました。(1/27) (再掲)</p> <p>また、野毛地区振興事業協同組合、野毛地区街づくり会、および横浜商科大学の連携によって企画・運営される社会人と大学生の公開講座「野毛まちなかキャンパス」の第1回として「新・今日の作家展2018」の特別鑑賞とレクチャーを実施しました(10/1、講師：大塚真弓(学芸員))。</p>
<p>●送迎車の最適な運用の実施</p>	<p>■桜木町駅と横浜市民ギャラリー間で(車いす利用者等の利用にも配慮した)無料</p>	<p>■桜木町駅と横浜市民ギャラリー間で(車いす利用者等の利用にも配慮した無料)送迎車を30年度も引き続き走行し、アクセス改善の一助としま</p>

	<p>の送迎車を走行。原則、障がい者、高齢者を優先とするサービス。アクセス改善の一助とする。</p> <p>■ 展覧会に即して着実に運行</p> <p>■ 館内、ホームページで周知</p> <p>■ 運行データの収集</p>	<p>した。特に配慮が必要なお客様からのお問い合わせには柔軟に対応し、安心してご来館いただけるようにしました。</p> <p>■ 展覧会の開始終了時刻を細やかに確認しながら、着実に運行しました。</p> <p>■ 30年度も引き続き、館内、ホームページ、野毛ちかみちの掲示板に乗り場や時刻表など掲載したほか、チラシとポケット時刻表をより見やすい体裁に変更を加えた新規版を印刷し、桜木町駅の観光案内所で配布していただくなど送迎車の周知に努めました。ホームページも、送迎車によりアクセスしやすいように表記を変え、乗り場付近の画像を掲載する等、工夫した案内を行いました。また、月ごとの送迎車運行予定のホームページへの掲載、SNSでの発信のほか、「本日の時刻表」を館内に掲示し、よりこまやかにお知らせしました。</p> <p>■ 運行データの収集を毎月行いました。関係者間で毎月会議を行い、日々のサービス向上に向けて協議しました。</p>
--	--	---

ウ 市民ギャラリー収蔵作品の適切な収蔵、保管、調査、研究、発表、活用、展示

<p>[取組内容]</p> <p>● 収蔵作品の適切な収蔵、保管、調査、研究、発表、活用、展示の実施</p>	<p>[達成指標]</p> <p>■ 作品の定期的な点検確認</p> <p>■ 作品データの更新</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>■ 作品の点検を12/18、12/19、12/20、12/21に行いました。年間を通じIPMの手法に基づき収蔵庫や館内の環境をモニタリング、状況を把握しました。館の職員による原則週1度の定期的な清掃及び簡易殺菌を行う一方、2ヶ月に1度サンプリング等点検の上、専門業者による分析とフィードバックを継続、年に1度専門業者による殺菌を行うなど環境向上に努めました。作品修復7件、クリーニング3件、当館学芸員が行う自前クリーニング1件実施。また詳細写真データ未撮影作品およびポジフィルムが劣化している作品よりあわせて10点の撮影を実施しました。</p> <p>■ ホームページにおける「収蔵作品検索ページ」開設のため、作品データ全件の見直しを改めて行い、必要な箇所については更新した上で予定</p>
--	--	---

<p>●資料情報、作品の貸出、展示、修復等の履歴についてのデータベースの継続的な充実及び台帳の継続的な管理と収蔵作品の公開の実施</p>	<p>□コレクション展実施</p> <p>□ホームページでの収蔵作品の紹介 12点</p> <p>■資料情報、作品の貸出、展示、修復等の履歴についてのデータベースを継続的に更新</p> <p>□コレクション展実施</p> <p>□ホームページでの収蔵作品の紹介 12点</p>	<p>よりも早く30年度末に公開できました。</p> <p>従来不足していた作品の出品歴データについて調査と入力に着手しました。新カード作成に備えた事前作業を継続して実施しました。</p> <p>□コレクション展2019「昭和後期の現代美術 1964-1989」(3/1-3/17)(展示室1、B1)(再掲)</p> <p>□ホームページでの収蔵作品紹介 12点 遠藤典太《麦田トンネル》、田澤茂《ベイブリッジ建設風景》、黒田茂樹《Sand glass》、やなせたかし《あんたが主役 港のマリントワー》、市川勉《ボスポロス海峡を臨む》、浅見信夫《花(品濃一里塚)》、浜口タカシ《車内風景》、中林忠良《転位'90-地-II》、志村計介《山王橋》、安喰虎雄《かに》、吉仲太造《夜》、吉田克朗《Work“171”》</p> <p>■資料情報、作品の貸出、展示、修復等の履歴についてのデータベースを継続的に更新しました。公開したホームページにおける「収蔵作品検索ページ」開設のため、作品データ全件の見直しを改めて行い、必要な箇所については更新した上で30年度末に公開しました。</p> <p>従来不足していた作品の出品歴データについて調査と入力に着手しました。新カード作成に備えた事前作業を継続して実施しました。(再掲)当館発行物を主要美術館や図書館に発送しました。事前作業として資料の在庫確認やリスト整理を行いました。</p> <p>□コレクション展2019「昭和後期の現代美術 1964-1989」(3/1-3/17)(展示室1、B1)(再掲)</p> <p>□ホームページでの収蔵作品紹介 12点 遠藤典太《麦田トンネル》、田澤茂《ベイブリッジ建設風景》、黒田茂樹《Sand glass》、やなせたかし《あんたが主役 港のマリントワー》、市川勉《ボスポロス海峡を臨む》、浅見信夫《花(品濃一里塚)》、浜口タカシ《車内風景》、中林忠良《転位'90-地-II》、志村計介《山王橋》、安喰虎雄《かに》、吉仲太造《夜》、吉田克朗《Work“171”》(再掲)</p>
--	--	--



<p>共有、業務改善のための会議を定期的に実施すると共に、職員の能力担保のためOJT及び定期的な研修等を実施</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「平成30年度九州国立博物館IPMセミナー」(10/24、10/25)</li> <li>・専門人材育成研修(11/2、12/10)</li> <li>・ワークライフバランス研修(11/16)</li> <li>・広報写真講座(11/26)</li> <li>・広報研修(12/4)</li> <li>・学びとアート研修(12/22)</li> <li>・バリアフリー研修(1/23)</li> <li>・チームビルディング職員研修(2/1、2/19)</li> <li>・働き方改革説明会(2/27)</li> <li>・人権研修実施(2/18)</li> <li>・AED取扱い研修(2/18)</li> </ul> <p>等に参加し、職員間で情報共有しました。</p>
--	--	---

オ 本市の重要施策を踏まえた取組について

<p>[取組内容]</p> <p>●個人情報保護についての取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報の規定及びマニュアル等に基づく適切な取り扱い</li> <li>・具体的な業務についてルール化し、研修や定期的なミーティングでスタッフの個人情報取扱いに対する意識を高める。</li> <li>・メールやFAX、郵便物の送付時の個人情報漏えいの防止</li> <li>・個人情報の適切な管理の徹底</li> </ul>	<p>[達成指標]</p> <p>□過失による個人情報流出事故 0件</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>□以下の取組を行った結果、事故は0件でした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■個人情報は施錠しての保管やパスワード等、規定やマニュアル等に基づいた取り扱いを行いました。</li> <li>■コンプライアンス委員会を中心に研修や情報共有のミーティングを実施しました。</li> <li>■ダブルチェックの徹底等、個人情報漏えいの防止に最新の注意を払いました。</li> <li>■個人情報の適切な管理を徹底しました。</li> </ul>
--	--	--

●情報公開についての取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>■規定に基づく適切な対応</li> <li>■事業計画書及び事業報告書の財団ホームページでの公開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■規定に基づき適切な対応を行いました。</li> <li>■事業計画書及び事業報告書を財団及び横浜市民ギャラリーホームページで公開しました。</li> </ul>
●人権尊重についての取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>■全ての人に開かれた施設として人権に配慮した運営や接遇の実施</li> <li>□横浜市主催の人権講習に職員が参加し、職場内の研修についても人権尊重の意識を高める取組を実施する。 研修 年1回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■研修への参加や事例の共有を通じて、人権に配慮した運営や接遇を実施しました。</li> <li>□横浜市主催の人権研修に参加できる機会が今年度はありませんでしたが、横浜市から人権研修資料を借り受け、職場内研修として人権尊重の意識を高める取組を実施しました。 人権研修 年1回実施</li> </ul>
●環境への配慮に関する取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>■環境への負荷の低減を意識した省エネルギー化、省資源化</li> <li>■「市役所ごみゼロ」「横浜市脱温暖化行動方針」「ヨコハマ3R夢(スリム)プラン」に基づいた施設管理</li> <li>□施設内での空気環境測定の実施：1回/2か月</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■全職員が環境への負荷の低減を意識し、業務に支障のない範囲で省エネルギー化、省資源化に努めました。またデマンド監視装置導入に向けて検討しました。</li> <li>■環境対策について横浜市の施策に沿った施設管理を行いました。</li> <li>□施設内での空気環境測定の実施 1回/2か月(5/10、7/5、9/5、11/7、1/8、3/5)</li> </ul>
●市内中小企業優先発注についての取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>■物品購入・委託等は、特別な専門性の必要なもの等の理由がある場合を除き、横浜市の「物品・委託有資格者名簿」に登録された企業に発注</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■業務に支障がない限り、横浜市の「物品・委託有資格者名簿」での登録業者に委託・発注しました。複数の振込口座を持つ相手先には横浜市内に本支店を持つ口座を優先的に使用しました。</li> </ul>

カ 諸室の利用内容について

[取組内容] ●開館について	[達成指標] <input type="checkbox"/> 開館について <table border="1" data-bbox="343 1877 758 1975"> <tr> <td>開館日数</td> <td>347日</td> </tr> <tr> <td>営業時間</td> <td>10時～18時</td> </tr> </table>	開館日数	347日	営業時間	10時～18時	[実施内容と達成状況] <input type="checkbox"/> 開館について <table border="1" data-bbox="885 1877 1316 1975"> <tr> <td>開館日数</td> <td>347日</td> </tr> <tr> <td>営業時間</td> <td>10時～18時</td> </tr> </table>	開館日数	347日	営業時間	10時～18時
開館日数	347日									
営業時間	10時～18時									
開館日数	347日									
営業時間	10時～18時									

●利用料金 について	□利用料金について				□利用料金について					
	展示室		面積 (㎡)	料金/日(円)		展示室		面積 (㎡)	料金/日(円)	
				入場 無料	入場 有料				入場 無料	入場 有料
	地下		170	5,000	10,000	地下		170	5,000	10,000
	1階		184	5,500	11,000	1階		184	5,500	11,000
	2階	全面	396	11,500	23,000	2階	全面	396	11,500	23,000
		A	225	6,500	13,000		A	225	6,500	13,000
		B	171	5,000	10,000		B	171	5,000	10,000
	3階	全面	396	11,500	23,000	3階	全面	396	11,500	23,000
		A	225	6,500	13,000		A	225	6,500	13,000
B		171	5,000	10,000	B		171	5,000	10,000	
全室		1,146	33,500	67,000	全室		1,146	33,500	67,000	
アトリエ		面積 (㎡)	区分利用料金		アトリエ		面積 (㎡)	区分利用料金		
			10:00~13:30	一日				10:00~13:30	一日	
			14:00~17:30					14:00~17:30		
平日	148.6	6,500	12,000		平日	148.6	6,500	12,000		
土日祝		7,500	14,500		土日祝		7,500	14,500		
駐車場	30分100円				駐車場	30分100円				

(3) 管理について

ア 施設、設備の維持保全及び管理

<p>[取組内容]</p> <p>●PDC Aサイクルに基づく、計画的で高品質な施設管理業務の実施</p>	<p>[達成指標]</p> <p>■施設・設備について高品質で効率的な定期点検及び日常点検の実施</p> <p>■施設(建築物)、設備、及び備品の破損、不具合等の異常時には、利用者の安全を確保すると共に、施設の運営に支障をきたすことのないように適切な措置を講じ、速やかに報告する。</p> <p>□設備の過失による運転停止事故：0件</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>■経験豊富な専門職員が定期的および日常的に点検し、利用者の要望や急激な気候の変化に対応できるよう、施設設備の機能維持に努めました。</p> <p>■異常時には直ちに対応できるよう施設管理職員と運営職員間の連絡体制を整え、修繕履歴等のデータを共有・蓄積し、今後役に立つシステムにしました。</p> <p>□設備の過失による運転停止事故：0件</p>
---	--	---

<p>●施設の安全・安心・快適環境維持と長寿命化対応の実施</p>	<p>■施設の状態を常に清潔に保ち、利用者が快適に利用できるような、管理の実施</p> <p>□アンケートでの快適評価 4.0 以上</p> <p>□施設ハード面での過失による事故：0件</p>	<p>■施設の状態を常に清潔に保ち、利用者が快適に利用できるような管理を実施しました。展示室の壁面は定期的な専門施行業者によるメンテナンスの実施に加え、当館スタッフによるリタッチを実施し、経費節減をしつつ展示壁をより良い状態で保つよう努めました。</p> <p>□アンケートでの快適評価 4.5</p> <p>□施設ハード面での過失による事故：0件</p>
<p>●保守点検、備品管理、環境維持の実施</p>	<p>■設備管理業務日誌での日常点検の通年の記録と共有</p> <p>■備品の適切かつ良好な状態での管理</p> <p>■廃棄物の排出量を把握し、減量や分別・リサイクルに努める。</p>	<p>■日誌や点検記録は担当職員と管理職で回覧共有し、保管しました。</p> <p>■安全で清潔な施設管理のために備品を常に良好な状態に保ちました。</p> <p>■環境対策の一環として常に廃棄物の排出量を把握した上で、減量やリサイクルに努めました。</p>
<p>●収蔵庫の適切な管理の実施</p>	<p>■空調管理の実施</p> <p>■収蔵庫内および収蔵庫周辺の定期的な清掃</p>	<p>■美術品保護に必要な温湿度管理のためにデータを蓄積しながら空調管理を実施しました。</p> <p>■定期的に清掃し、美術品保護及び環境維持を行いました。</p>

イ 小破修繕への取組

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<p>●効果的な小破修繕への取組</p>	<p>■施設管理に対する全職員の意識の向上</p> <p>■全職員及び横浜市との情報の共有</p> <p>■全修繕履歴の年度毎のデータ化</p>	<p>■情報共有のほか会議で取り上げるなど、施設管理に対する全職員の意識の向上に努めました。</p> <p>■修繕に関する施設内での情報共有のほか、モニタリングや設備トラブル報告書を通して横浜市と情報共有をしました。</p> <p>■全修繕履歴の年度毎のデータ化を行いました。</p>
<p>●保守管理の専門技術を活かした、迅速か</p>	<p>■保守管理の専門技術を活かした、突発修繕への速やかな対処</p>	<p>■豊富な経験を有する共同事業体の専門職員を中心に、突発的な修繕を必要とされる場合でも速やかに対処しました。</p>

<p>つ臨機応変な突発修繕への対応</p> <p>●多角的視点からの小破修繕箇所早期発見</p>	<p>■定期点検や日常点検、横浜市の施設管理におけるガイドラインに沿った点検・報告等の実施による修繕必要箇所の早期発見・対応により施設の長寿命化を図る。</p>	<p>■横浜市の施設管理におけるガイドラインだけではなく、インターネットや他施設の情報など、多角的な知見を得て業務に対応しました。照明設備や空調設備等はこまめに状態を確認して管理し、不要な運転を減らすことで省エネだけではなく機械の長寿命化につなげることができるよう配慮した取り組みを行いました。</p>
--	--	---

ウ 事故防止体制・緊急時(防犯)の対応・感染症対策等衛生管理

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<p>●事故防止体制・緊急時のための方針と対策</p> <p>・警備スタッフ及び機械警備による切れ目のない万全の警備体制の実施</p> <p>・関連法規の遵守</p> <p>・警備計画及び報告書の作成と適切な報告の実施</p>	<p>■警備専門スタッフが午前9時から午後7時まで1階受付及び警備室へ常駐し、それ以外の時間帯である午後7時から翌午前9時までは機械警備にて万全の警備体制を実施する。</p> <p>■業務の基準に基づき、警備の実施と利用者の入退出の適切な管理</p> <p>□過失による事故 0件</p> <p>■業務を遂行する上で、定められた関連法規等を遵守する。</p> <p>■警備計画書及び巡回警備計画書の作成とそれに基づいた警備業務の実施</p> <p>■警備スタッフによる警備及び機械警備の業務日誌</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>■人的警備、機械警備とも業務計画通り実施し、施設の安全を図りました。また、運用状況に応じて適切な警備を行いました。</p> <p>■業務の基準に基づき、来館者が安心・安全に施設を利用できるよう警備や管理を行いました。</p> <p>□過失による事故 0件</p> <p>■「消防法」「警備業法」等、定められた関連法規等を遵守しました。</p> <p>■警備計画書及び巡回警備計画書に沿った警備業務を実施し、安全な施設運営に努めました。</p> <p>■業務日誌を毎日作成及び回覧し、情報共有を図りました。</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設内外への防犯対策の実施</li> <li>・救急セットやAED等の設置と十分な研修の実施</li> <li>●インフルエンザ等の感染症対策</li> </ul>	<p style="text-align: center;">の作成と共有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■警備スタッフによる、施設の駐車場だけではなく周辺道路への防犯対策の実施</li> <li>■救急セットやAEDの完備</li> <li>□AED取扱い研修 年1回実施</li> <li>■毎日のAEDのセルフメンテナンスチェックの結果の確認</li> <li>■職員による施設内巡回による衛生管理の徹底</li> <li>■インフルエンザ等の流行時における予防のための掲示の実施や消毒剤の設置</li> <li>■鳥インフルエンザへの留意と異常時の迅速な対応</li> <li>■汚物の処理にあたっての準備及び処理時の手袋・マスクの装着の徹底</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■近隣の防犯対策の実施や交通状況への対処など、周辺道路に対しても対応し、地域の一員としての責務を果たしました。</li> <li>■救急セット及びAEDを完備しました。</li> <li>□AED取扱い研修 年1回実施(2/18)</li> <li>■毎日目視によるセルフメンテナンスチェック結果を確認しました。</li> <li>■衛生管理の意識を高く持ち、異常時には直ちに報告・対処できる体制にしました。</li> <li>■インフルエンザ等の予防のための掲示を実施し、消毒剤を設置しました。</li> <li>■発生件数はありませんでしたが、異常時には対応できるよう鳥インフルエンザに留意しました。</li> <li>■汚物の処理にあたっては処理キットを備え、処理時の手袋・マスクの装着を徹底しました。</li> </ul>
--	--	--

エ 防災に対する取組

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●緊急時の連絡体制・役割分担</li> <li>●平常時の防災対策</li> </ul>	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■緊急時の対応を明確にし、緊急連絡網を作成し、市に提出する。</li> <li>■関連法規に基づいた届出等を行う。</li> <li>■危機管理マニュアルを作成し、災害時には、マニュアルに沿った対応ができるようにする。</li> <li>■全スタッフへの普通救命</li> </ul>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■緊急時に迅速に対応できるよう緊急連絡網を作成し、市に提出しました。変更の場合も迅速に再提出を行いました。</li> <li>■防火管理者を配置し、関連法規に基づいた届出等を行いました。</li> <li>■危機管理マニュアルを作成し、災害時に備えました。</li> <li>■全スタッフがAEDの操作や救命措置を行えるよ</li> </ul>
---	---	--

<p>●災害発生時の取組</p>	<p>講習や訓練を実施し、日頃から防災意識を高める。</p> <p>□危機管理マニュアルに基づき、災害時に来館者を安全に誘導できるようスタッフの消防訓練を行う。</p> <p>消防訓練 年2回実施</p> <p>■自衛防災組織を設置し、継続的に防災訓練を行う。</p> <p>■町内会と防災関連の協議を行い、地域社会での責務を果たす。</p> <p>■関連法令、条例、業務の基準に基づき、来館者の安全確保を最優先とし適切に対応</p> <p>■情報管理の一元化及び適切な報告を行う。</p> <p>■二次災害の発生防止措置の実施と、横浜市等との協議の上で適切な対応を行う。</p>	<p>うに訓練や講習を実施しました。</p> <p>■年2回、本番さながらの状況を作り出し、災害時に安全に対応できるよう消防訓練を行いました。</p> <p>□消防訓練 年2回実施(8/10、2/18)</p> <p>■自衛防災組織を設置し、継続的に防災訓練を行いました。</p> <p>■町内会と定期的に会議を持ったほか、町内会での防災訓練にも参加するなど、有事に備えて責務を果たす体制を整えました。</p> <p>■災害は発生しませんでした。年に2回消防訓練をしたほか、地震発生時には館内点検を実施しました。</p> <p>■情報管理の一元化及び適切な報告を行うため日常的に館長への情報集約を実施しました。</p> <p>■消防訓練において、消防署員から災害発生に対する心構えや事例を指導いただくことで、2次災害発生防止措置を図ることを再確認しました。</p> <p>■2回の防災訓練いずれにおいても、防災監視装置や防災放送などの機器を実際に作動させ、本火災発生状況をできる限り再現したうえでの臨場感のある訓練形態としました。スタッフの役割を変えて複数回実施し、全スタッフに対応の徹底を図りました。</p> <p>□年2回実施(8/10、2/18)</p>
<p>●帰宅困難者一時滞在施設としての準備等の災害時の取組</p>	<p>■非常用簡易トイレ、飲料水、非常食、毛布等の備蓄</p> <p>■適切な情報収集による来館者や職員、施設の安全確保</p> <p>■災害鎮静後の危機管理マ</p>	<p>■災害は発生しませんでした。15人×3日分の非常用簡易トイレ、飲料水、非常食、毛布等の備蓄を整えました。</p> <p>■災害時には適切な情報収集を行うことをスタッフ内で確認しました。</p> <p>■災害鎮静後には危機管理マニュアルに基づき適切</p>

	<p>ニュアルに基づく適切な対処と原状復旧体制の確保</p>	<p>に対処し、原状復旧体制をとることをスタッフ内で確認しました。</p>
--	--------------------------------	---------------------------------------

(4) 収支について

ア 指定管理料のみに依存しない収入構造

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<p>●利用率の向上による利用料金収入の増加への取組</p>	<p>□施設の利用率向上により安定した利用料金収入を得ることで経営の健全化に繋げる。</p> <p>平成 30 年度目標額 11,500,000 円</p>	<p>□空き室の利用促進のための運用の変更や利用案内チラシを作成した結果、展示室は 95%と高い利用率となりました。利用料金実績は目標額を上回ることができました。</p> <p>30 年度利用料金実績 11,505,090 円</p>
<p>●周知等による駐車場の利用料金収入の増加への取組</p>	<p>□伊勢山皇大神宮等への周知活動の実施により駐車場の利用の増加を目指す。</p> <p>平成 30 年度目標額 1,160,000 円</p>	<p>□伊勢山皇大神宮に駐車場の空き状況を提供し、参拝客への周知を行ったほか、警備スタッフが細目に空き状況を確認しながら、効率良く車両を受け入れました。</p> <p>30 年度実績 1,429,900 円</p>
<p>●助成金・協賛金・広告料収入の獲得</p>	<p>□助成金・協賛金の獲得 平成 30 年度目標額 1,300,000 円</p> <p>□広告料 平成 30 年度目標額 440,000 円</p>	<p>□助成金・協賛金の獲得 助成金：芸術文化振興基金 1,434,000 円 (公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団、公益財団法人野村財団申請は不採択) 現物協賛：エレク トーンレンタル及び運搬費、飲料 2 ケース</p> <p>□広告料 30 年度実績 570,000 円</p>
<p>●周知等による講座料収入の増加への取組</p>	<p>□独自の事業周知の取組みに加え、財団の広報ネットワークや管理運営する美術系施設間と連携した周知等により事業参加者数の増加を目指す。</p> <p>平成 30 年度目標受講料</p> <p>□大人のためのアトリエ講</p>	<p>□ホームページや SNS を利用した周知に加え、財団の広報ネットワークと連携したより広い媒体への周知や施設へのチラシ配架により、事業参加者数の増加を目指しました。</p> <p>30 年度受講料実績</p> <p>□大人のためのアトリエ 1,541,000 円</p>

<p>●自動販売機の販売収入の増加への取組</p>	<p>座 1,220,000 円  <input type="checkbox"/>ハマキッズ・アートクラブ 430,000 円  <input type="checkbox"/>客層の嗜好に合わせた内容を販売することで販売収入の増加を目指す。  平成 30 年度目標額 400,000 円</p>	<p><input type="checkbox"/>ハマキッズ・アートクラブ 302,500 円  <input type="checkbox"/>来館者数や来館者層を予測しながら販売内容を決し、販売収入の増加を目指しました。  30 年度実績 325,960 円</p>
---------------------------	---	---

イ 経費削減等効率的運営の努力

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<p>●発注及び事務の効率化等による経費削減</p>	<p>■横浜市に準じた経理規程に基づいた、支出を最小限に抑える取組の実施  ■事務用品の再利用化の推進  ■広報物の発送の効率化による経費の削減  ■計画的な経理処理による手数料の削減</p>	<p>■入札や見積り合わせ等、支出を最小限に抑える取組を実施しました。  ■分別した上、裏紙利用など、資源の再利用に努めたほか、会議等で職員の節約に対する意識を高めました。  ■発送計画を立て、作業日を集中させるなど、広報物の発送の効率化による経費の削減を実施しました。  ■計画的な経理処理により手数料の削減を心がけました。</p>
<p>●適切な施設及び設備管理による経費削減</p>	<p>■施設・設備の効率的な運用による経費削減  ■施設・設備の現状把握と修繕計画による支出の平準化と修繕費の抑制  ■早期の修繕実施による長期における経費削減</p>	<p>■過年度のデータをもとに細やかで効率的に設備運転を実施しました。  ■日常的に共同事業体間の情報共有を密に行い、現状を把握したうえで計画的に修繕を行いました。  ■設備担当の日常点検だけではなく、全職員の意識を高め、不具合があれば迅速に報告・対処しました。</p>
<p>●職員の業務の効率化による経費削減</p>	<p>■職員会議や面談による職員の業務の効率化への意識の統一  ■業務の発注へのコスト意識及び職員の超過勤務削減による経費削減</p>	<p>■日常の勤務状況を踏まえた上で職員会議や面談により、職員の業務の効率化への意識統一を図りました。  ■入札見積り合わせ等、経理規程に基づきながら契約発注をしたほか、平素から超過勤務削減への職員間の意識を高め、業務に対する経費削減に努めました。</p>

<p>● 展覧会や講座等の事業にかかる経費削減</p>	<p>■ 作家や講師と協働での事業企画による経費削減</p> <p>■ 企業からの現物協賛の受入れ等による経費削減</p>	<p>■ 作家や講師に事業の趣旨や意義を伝え共感していただく事で、経費の工夫など経済的にも協力していただきました。また、横浜美術館や横浜市民ギャラリーあざみ野と展覧会や講座で備品を貸し借りし、経費節減に努めました。</p> <p>■ 事業の趣旨を理解していただいたうえで、企業からの現物協賛などの協力を受けることができ、結果として経費の削減に繋がりました。</p> <p>・エレクトーンレンタル及び運搬費、飲料2ケース</p>
-----------------------------	---	---

(5) PDCAサイクルの確実な運用

[取組内容]	[達成指標]	
<p>● 日報及び月間事業報告書の作成・管理</p>	<p>■ 各種日報の作成</p> <p>■ 月報を作成しモニタリング時に提出</p> <p>■ 各日報、月報を適切に管理保管</p>	<p>■ 各種日報を作成し、担当部署及び管理職に回覧、情報共有を図りました。</p> <p>■ 月報を作成しモニタリング時に提出しました。</p> <p>■ 各日報、月報を適切に管理保管しました。</p>
<p>● 業務計画書及び業務報告書の作成・管理</p>	<p>■ 業務計画書(次年度の業務計画、収支予算)を作成し横浜市に提出</p> <p>■ 業務報告書(前年度の業務報告及び利用実績、収支決算)を作成し横浜市に提出</p>	<p>■ 業務計画書(次年度の業務計画、収支予算)を作成し横浜市に提出しました。</p> <p>■ 業務報告書(前年度の業務報告及び利用実績、収支決算)を作成し横浜市に提出しました。</p>
<p>● 業務評価(モニタリング、自己評価、第三者による評価の実施)</p>	<p>■ 定期的にモニタリングを実施し、横浜市に運営状況の報告</p> <p>■ 自己評価の実施</p>	<p>■ 横浜市の担当者と毎月1回のモニタリングを実施し、運営状況を報告しました。</p> <p>■ 自己評価を実施しました。</p>

(6) その他

[取組内容]	[達成指標]	
<p>● 保険及び損害賠償の取扱い</p>	<p>■ 施設賠償保険、動産総合保険、レジャー・サービス施設費用保険に加入</p>	<p>■ 施設賠償保険、動産総合保険、レジャー・サービス施設費用保険に加入しました。</p>
<p>● 関係法令の順</p>	<p>■ 業務を遂行するうえで、</p>	<p>■ 業務を遂行するうえで、定められた関係法令等を</p>

<p>守</p> <p>●市及び関係機関等との連絡調整</p>	<p>定められた関係法令等を遵守</p> <p>■横浜市とのモニタリングを定期的開催</p>	<p>遵守しました。</p> <p>■横浜市とのモニタリングを定期的開催しました。(5/15、6/18、7/24、8/30、9/27、10/23、11/29、12/21、1/21、2/25、3/18、4/23)</p>
---------------------------------	--	---

【別紙】自主事業一覧

No	実施 時期	主催・ 共催・ 協力等	事業名	会場	事業内容	入場者・ 参加者 数(人) (見込者 数)	実施回 数
1	9/21- 10/8	主催	新・今日の作家展 2018「定点なき視点」 [関連事業] ・対談「舟と橋、想像力について」(9/22) ・対談「幽霊のはなし」(9/29) ・対談「他者との関係性について」(10/6) ・学芸員によるギャラリートーク(9/30)	展示室 B1、1	1964 年から 2006 年まで開催した現代美術の年次展「今日の作家展」の歴史を継承し、現在進行形の美術を紹介する。 出品作家：岩井優、川村麻純、阪田清子	3,561 (4,500)	1 事業 関連事業 4 事業
2	3/1- 3/17	主催	コレクション展 2019「昭和後期の現代美術 1964-1989」 [関連事業] ・講演「1964 年から：現代美術と横浜市民ギャラリー 吉仲太造を中心に」(3/3) ・学芸員によるギャラリートーク(3/10) ・鑑賞サポーターによるトーク(3/9、16)	展示室 B1、1	テーマを設定して約 1,300 点の収蔵作品から選りすぐった作品を魅力的に紹介。今回は「今日の作家展」出品作家の作品を中心に市民ギャラリーの歴史、世相、美術界の動向を参照しながら昭和後期の現代美術を展示。 第 1 章：1964-1973(昭和 39-48) 第 2 章：1974-(昭和 49-) 第 3 章：-1989(-昭和 64) 特集展示：吉仲太造、その表現	4,476 (4,000)	1 事業 関連事業 3 事業 4 回
3	7/20- 7/29	主催	横浜市こどもの美術展 2018 [関連事業] ・ミロコマチコ展「いきものかたちもよう」(7/20-29) ・ミロコマチコライブペインティング(7/12) ・自由参加ワークショップ「どうぶつお面をつくろう！」(7/20-29) ・ハマキッズ・アートクラブ「へんてこ動物をつくろう！」作品展示(7/23-29) ・「夏のこども音楽会」 「ヤマハ エレクトーン オンステージ」(7/28、7/29)、「ハマのJACK」の“野毛山動物園の謝肉祭”(7/29)	展示室 B1、 1、2、3	市内在住・在学の 12 歳以下の幼児・児童を対象とした無審査の公募展。	16,860 (14,000)	1 事業 関連事業 6 事業 9 回
4	4-2 月	主催	ハマキッズ・アートクラブ	アトリエ	小学生以下の子どもを対象とした造形講座	265 (200)	10 講座
5	5-2 月	主催	大人のためのアトリエ講座	アトリエ	専門的な創作活動を体験する造形講座と、芸術文化各分野で活動している方を講師に招く聴講講座。全 10 講座。	272 (200)	12 講座 30 回

6	8月	主催	横浜市民ギャラリーアーツフェスティバル事業 ・美しきリユート～バロック・ダンスとの邂逅 (8/24) ・須川展也 plays“シャコンヌ”ーサクソフォン・ソ ロ(8/26)	展示室 B1	DDD2018 に寄与するコンサート ・リユートの名手 金子浩さんとバロッ ク・ダンスの第一人者市瀬陽子さんの 共演による公演 ・国内を代表するサクソフォン奏者によ る公演 Dance Dance Dance@YOKOHAMA2018 関連イベント	186 (150)	2 事業
7	10-2 月	協力	横浜市芸術文化教育プラットフォーム 学校プログラム	市内	市内学校へアーティストが出向き、プロ グラムを実施	のべ 380 (-)	3 校 6 日間
8	1-3 月	協力	アートティーチャーズ・プロジェクト	市内	・横浜市教育委員会と共催で市内中学 校美術科教員向けの研修会(1/22) ・横浜美術館「教師のためのワークショ ップ 2019」への協力(講師)(3/23、 3/24)	- (30)	2 事業 3 回
9	通年	その他	広報事業 「ギャラリーマップ」「アートヨコハマ」「横浜画廊 散歩」の発行等	-	情報誌 3 種「ギャラリーマップ」「アートヨ コハマ」「横浜画廊散歩」の発行とホー ムページでの情報発信を行う。	-	-
10	通年	その他	コレクション管理	-	収蔵庫の整備、所蔵品の点検・データ 更新を行う	-	-
11	2月	共催	上田順平個展「シン／エン」(1/31～2/17)	展示室 B1	主催 イムラアートギャラリー	476	1 事業
12	8/21- 8/27	共催	偉大なる芸術家の思い出～没後 10 年 山岡優 子先生を偲んで	展示室 2 階	日本のピアノ界の草分けであり、演奏 だけでなく国際的なアーティスト育成に 尽力した横浜のピアニストの功績を伝 える	657	1 事業

(指定管理者が記入する様式)

## 平成30年度 「横浜市民ギャラリー」 収支予算書及び報告書

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	144,264,000		144,264,000	144,264,000	0	横浜市より
利用料金収入	12,660,000		12,660,000	12,934,990	△ 274,990	施設利用料、駐車場利用料
自主事業収入	1,950,000		1,950,000	2,251,500	△ 301,500	入場料、講座料
雑入	2,197,000	0	2,197,000	3,435,127	△ 1,238,127	
印刷代			0	43,600	△ 43,600	
自動販売機手数料	400,000		400,000	325,960	74,040	
その他(助成金・協賛金・広告料等)	1,797,000		1,797,000	3,065,567	△ 1,268,567	
<b>収入合計</b>	<b>161,071,000</b>	<b>0</b>	<b>161,071,000</b>	<b>162,885,617</b>	<b>△ 1,814,617</b>	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	72,549,000	0	72,549,000	71,918,647	630,353	
給与・賃金	59,766,000		59,766,000	58,842,036	923,964	
社会保険料	8,619,000		8,619,000	8,015,286	603,714	
通勤手当	1,318,000		1,318,000	1,129,368	188,632	
健康診断費	89,000		89,000	98,664	△ 9,664	
勤労者福祉共済掛金	54,000		54,000	54,000	0	
退職給付引当金繰入額	2,703,000		2,703,000	3,779,293	△ 1,076,293	
事務費	3,602,000	0	3,602,000	3,357,667	244,333	
旅費	180,000		180,000	137,891	42,109	
消耗品費	728,000		728,000	167,195	560,805	
会議ठीい費	15,000		15,000	2,480	12,520	
印刷製本費	250,000		250,000	179,340	70,660	
通信費	785,000		785,000	697,370	87,630	
使用料及び賃借料	121,000	0	121,000	572,472	△ 451,472	
横浜市への支払分	121,000		121,000	120,528	472	
その他			0	451,944	△ 451,944	コピー複合機賃借、AED賃借等(予算時はリース料に計上)
備品購入費	0		0	821,012	△ 821,012	展示台等
図書購入費	60,000		60,000	28,536	31,464	
施設賠償責任保険	50,000		50,000	17,590	32,410	
職員等研修費	10,000		10,000	0	10,000	
振込手数料	160,000		160,000	131,544	28,456	
リース料	1,207,000		1,207,000	563,844	643,156	
手数料	0		0	2,393	△ 2,393	
地域協力費	36,000		36,000	36,000	0	
事業費	18,517,000	0	18,517,000	19,797,221	△ 1,280,221	
自主事業費	18,517,000		18,517,000	19,797,221	△ 1,280,221	
管理費	53,188,000	0	53,188,000	53,091,107	96,893	
光熱水費	7,800,000	0	7,800,000	7,610,807	189,193	
電気料金	5,000,000		5,000,000	4,854,413	145,587	
ガス料金	2,000,000		2,000,000	2,119,178	△ 119,178	
水道料金	800,000		800,000	637,216	162,784	
清掃費	0		0	0	0	
修繕費	1,000,000		1,000,000	513,000	487,000	
機械警備費	389,000		389,000	388,800	200	
設備保全費	43,999,000	0	43,999,000	44,578,500	△ 579,500	
空調衛生設備保守	0		0	0	0	
消防設備保守	464,000		464,000	464,400	△ 400	
電気設備保守	325,000		325,000	325,296	△ 296	
害虫駆除清掃保守	1,769,000		1,769,000	1,727,244	41,756	
駐車場設備保全費	0		0	0	0	
その他保全費	41,441,000		41,441,000	42,061,560	△ 620,560	清掃費、設備管理業務、送迎車委託費等
共益費	0		0	0	0	
公租公課	5,921,000	0	5,921,000	5,151,147	769,853	
事業所税	16,000		16,000	0	16,000	
消費税	5,880,000		5,880,000	5,105,700	774,300	
印紙税	20,000		20,000	24,800	△ 4,800	
その他(法人住民税、電波使用料)	5,000		5,000	20,647	△ 15,647	
事務経費 (計算根拠を説明欄に)	7,294,000	0	7,294,000	7,294,000	0	
本部分	7,294,000		7,294,000	7,294,000	0	
当該施設分			0	0	0	
<b>支出合計</b>	<b>161,071,000</b>	<b>0</b>	<b>161,071,000</b>	<b>160,609,789</b>	<b>461,211</b>	
差引	0	0	0	2,275,828	△ 2,275,828	